

奈良・人と自然の会

新春雑感

会長 川井 秀夫

新年明けまして御目出度うございます。

今年は十干で言う、『癸未』(みずのとひつじ)の年に当たります。癸は水の意を表してをり、羊の穏やかさと、潤いのある年でありたいと思います。

しかしながら、昨今のデフレ不況、世界同時株安、不良債権処理に絡む金融の悪循環、更には社会の陰惨な犯罪、テロ・核に関わる悪の枢軸国の所業等々 出口のない暗渠に身を潜めている様な、やりきれなさを感じます。

本年四月から、シニア自然大学もNPO法人として協会から分離独立して、船出する事になりました。四囲の状況は、必ずしも楽観できない情勢ではありますが、新しい事をするには常にリスクはつきもの、勇気ある出発に拍手を送りたいと思います。 さて

我が「奈良・人と自然の会」の動静を見てみますと、発足以来二年有余が経過しましたがゆっくりとした足取りではありますが、会員数の増加、定例行事の定着、また外部からの受託行事も実行に移せる状態となり、一步一步前進しつつある様に思います。

しかしながら、問題点も幾つかあります。組織の活性化、財政の脆弱さ、外部機関との連帯、会員との意志疎通等々 自省しながらも検討課題が山積しております。

また、船出したものの、これから何処へ向かうのか、羅針盤の操作を誤らない様、幹事諸氏としっかり見定め、再確認する事も最大事ではないかと考えております。

今年の三月には、京都・滋賀・大阪の三都市を結び、世界水フォーラムが開催されます。人口・食糧問題に関連して世界的な水不足が問われ、気候変動・環境破壊による地域格差も論点の一つに挙げられております。日本は、水資源には恵まれている様ですが国民一人当たりの供給量は自慢出来るものではなく、水質の悪化も指摘されております。

我々も、インフラ・生活に関わる環境問題についても、視点を広げ社会への伝達者としての啓蒙活動を考えてみたいと思っております。

会員の皆さんがこれからの余生において、いかに楽しく、意義ある時間を共有できるのか、それぞれの価値観の中で、率直なご意見、ご提案を頂ければと存じております。

世の変遷はともかく、悠久不変の大自然の中で、ボラ団体として我々が出来得る社会への役割の一端を、確かなものとして、活動してまいりたいと思います。ご協力下さい。

今年もWITH YOUです。貴方と一緒に 元気に和やかに頑張りましょう。

2002年12月度定例幹事会報告

1、日時 2002年12月6日(金) 18:00~20:00

- 2、場所 奈良県文化会館2階F室
 3、席者 川井、樋口、寺田、弓場、小山、豊島、野田、大寺 (欠席 有本、勝田、谷口)
 4、司会、川井 書記、大寺

報告事項

- ①会員動向： 1名 退会、1名 新入会 会員数 69名
 会計残高： ¥160,672
 ②月例行事： 11月10日(日)「飛鳥源流を訪ねる」参加者 9名 (有本、豊島)
 : 11月17日(日)「山の辺の道Ⅲ」参加者 27名 (弓場)
 紀行文 寄稿有り マップ 小山作成済
 ③その他 : 東海自然歩道植生マップは機関紙発送と一緒に発送する

承認事項

- ① 新春講演会 内容決定 (別途案内状発送)
 日時：平成15年1月18日(土) 10:00~12:00
 場所：奈良県文化会館 1階第2会議室
 講師：河合正人氏 (あやめ池自然博物館学芸員)
 演題：「昆虫と植物の結びつき」
 会費：無料

討議事項

- ① 西大和中学ボランティア体験学習受け入れについて (二案を学校側の選択に任せる)
 1案：金剛小吹台 竹の間伐
 2案：畝傍西麓 竹の間伐 <11月20日迄>
 ② 来春の行事確認 日程は早い目に決定し、一覧表作成の上配布する (企画)
 1月12日(日) 東海自然歩道「山の辺の道Ⅲ」三輪-天理
 集合近鉄桜井駅9:00 (担当大寺)
 1月18日(土) 新春講演会 奈良文化会館 10:00~12:00
 2月11日(火) 東海自然歩道「~~山の辺の道Ⅲ~~」三輪-長谷寺
 集合近鉄桜井駅9:00 (担当豊島)
 2月27日(木) 奈良公園「野鳥と冬芽」 (担当長野)
 3月(日時未定) 東海自然歩道第7回 長谷寺-鳥見山 (担当甲斐野)
 * 3月26日(日) 大宇陀森野栗草園 (担当豊島 or 勝田) 3ヶ所
 4月(日時未定) 東海自然歩道第8回 鳥見山-室生口大野 (担当川井)
 その他 行事企画書の必要性については次回討議事項とする
 ② 1月定例幹事会は1月10日(金) 18:00 畝傍社会福祉センター

ムササビが飛んだ

小田 進八郎

当日は、朝からあいにくの小雨。昼間の第1部は、樋口さんのご案内で、植物を中心とした奈良公園の冬支度を観察。奈良の歴史についても解説していただく。何度か歩いた奈良公園なのに、何も知らなかったことを悟る。

しばし休憩の後、第2部ムササビ観察会開始。夕闇が迫り、せつないような鹿の恋鳴きも収まる。しかし、肝心のムササビが何処から現れるのか、見当もつかない。樋口さんのご指導で観察場所を絞る。薄暗い松林の中に、ムササビのものらしい、松ぼっくりの食痕を複数発見。敵は近い・・・と、張り込み中の刑事の気分であるが、ほんとに会えるのかどうかは不安。ポンチョ姿のNさんがムササビに見える。気温が次第に下がってきて、熱燗の誘惑に負けた3人が脱落。それから・・・約20分経過。高い松の木の地上5mほどの所に、気になる動きを発見した。ライトで照らすと、白い腹と長い尾を見せながら、リスのような動物がすばやく駆け上がる。ムササビだ。途中の枝で、動きが止まる。ライトに照らされた目が怪しく光るだけで、動かない。突然、「飛んだ！」と言う歓声。双眼鏡を覗いていた私は、飛んでくる場面を見逃してしまっただが、別のムササビが、観察中の木に、文字通り飛び入り参加したのだ。後からきたムササビが登り始めると、今まで動こうとしなかったムササビが、追い立てられるように樹上に駆け上がり、その勢い

のまま、右手の松林に飛んだ。たまたま通りがかった4人の学生を掴まえ、ムササビについて知っている限りの知識を披露する。講釈のネタが切れた頃、後から参加したムササビも樹上に駆け上って、そのまま、やや左手奥に飛ぶ。2匹の関係は謎のまま。緊張と興奮の15分。第2部観察会は目的を達し、めでたく終了。成果を報告するため、脱落組の待つ第3部の会場へ急いだ。

奈良・人と自然の会
[ネイチャーなら]
[2月度例会]のご案内 奈良公園野鳥観察会

お馴染みの奈良公園で冬のトリたちを今一度じっくり観察して見ませんか。ビンズイ、アトリ、シロハラ、ルリビタキなどは今シーズンの見納め?カワセミ、ヤマガラ、メジロなどの定住者の他に運がよければオオタカ、ハイタカ、ノスリ、アオバトなどにもお目にかかれるかもしれません。

- <日 時> 平成15年2月27日(木) 午前9時30分集合
 <集合場所> 近鉄奈良駅、行基菩薩像前
 <行 程> 興福寺⇒博物館⇒鷺池・荒池⇒新公会堂⇒三月堂
 ⇒知足院⇒大仏池⇒依水園⇒近鉄奈良駅
 <持ち物> 弁当、水筒、双眼鏡(スコープ)、図鑑など

担 当: 長野 晃

新春講演会のご案内

川井 秀夫 会長

昨年に引き続き新春講演会を開催いたします。大自然の不可思議さを昆虫を通してユニークな話しが聞けると思います。気軽に多数のご出席をお待ちします。

- 1、日時 平成15年1月18日(土) 受付9:00、開演10:00、終了12:00
- 2、場所 奈良県文化会館 1階第2会議室
- 3、講師 あやめ池自然博物館 学芸員 河合 正人氏
- 4、演題 『植物と昆虫の話』
- 5、会費 無料
- 6、その他 講演終了後、昼食会を予定しています。御希望の方は受付で申し込み下さい。

第5回東海自然歩道自然観察会のご案内

ネイチャーなら
奈良・人と自然の会

第5回 東海自然歩道...自然観察会のご案内

新年を迎え、東海自然歩道の観察会は日本最古の大神神社に初詣のあと、三輪山沿いに三輪から天理に向かって神話のストリート「山の辺の道」Ⅲの自然観察を行います。気楽にご参加ください。

- <コース名> ⑤ 山の辺の道Ⅲ [16km]
 <日 時> 1月12日(日) 9時20分 集合
 <集合場所> 近鉄桜井駅 : 改札口
 近鉄ナンバ〔奈良行快速〕8:34発...鶴橋 8:40 乗換・〔青山町行快速〕8:43発...八木9:15...桜井9:19
 <行 程> JR 三輪駅~大神神社~石上神宮~ JR・近鉄天理駅
 <担 当>

有本倍美

寺田正博

弓場厚次

松竹梅はなぜめでたいか

寺田正博

正月飾りの主役は松でしょう。

本来正月飾りは、年神を迎えるための依代として榊、檜などの常緑樹が用いられてきたが平安時代頃から神待つ木という意味より松がつかわれ、神の降臨する神聖な木として尊ばれた。「万葉集」には七十首をこす松の歌があるが、門に松を飾る歌は一つもない。新年に門松をたてる行事は、平安時代以前にはなかったらしい。

平安時代の文人、惟宗孝言は正月に「近世来、世俗に皆、松を門戸にさすが私は賢木をそれに代えた」と詠んでおり、門松の誕生の記録と言えるでしょう。

十二月十三日に松迎えをして、十二月二十日から二十八日の間に、門などに門松として松を立てるしきたりがあった。二十九日に立てるのを「九松」（苦待つ）、三十一日には「一夜松」（誠心のない意）といて忌み嫌う。鎌倉時代に竹を加えて松竹となり、江戸に入ってから一對にして向かって右に雌松（赤松）、左に雄松（黒松）を竹とともに立てるようになった。

松という字は、偏が十と八、旁が公であることにより、松の異名として「十八公」と言う。

十八の 公は御門の かざりかな

松竹梅がめでたいとりあわせとしてなぜ尊重されるのでしょうか。そもそも松竹梅は、厳寒三友といって寒い冬に耐えてきた木を雅びやかに表した言葉であった。

松 百木の長として「松柏の」という形容詞がある。厳寒にも葉の色を変えず、艱難に耐え、固く節操を守るといって高雅なたくましさがある。樹齢も長く（特に長いわけではなく七百年～八百年のようである）。樹脂は松明として闇を照らし、松の葉の輪生は一家団欒を表し、対生は夫婦和合のしるしなど、長寿、平和、繁栄をしめしている。

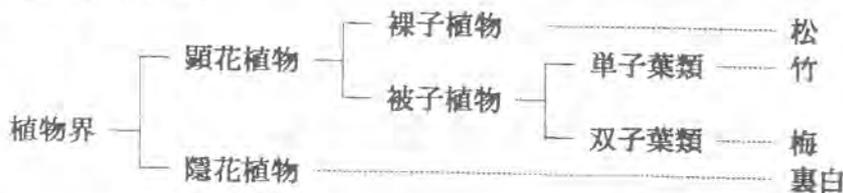
竹 雪が積もって撓んでも折れないしなやかさがあり、節と節の間がみな急速に成長する青春の生命力を持つ。また竹の緑は色が変わらず長寿を表し、「竹を割った性格」とは曲がった所やわだかまった所のない高風清節な性質のことをいう。

竹も七夕の竹や笹で象徴されるように神の依木、あるいは起工式に四隅にさす竹や笹のように聖域を示す儀式植物である。

中国の影響をうけて、わが国では正月が終わる一月十四日または十五日に左義長という行事が行なわれていた。お正月に神の依代となった松竹梅や生花のお飾りなどを、穢れないように火で清める行事で、このとき「破竹」を用いると、稗が威勢よく割裂し、パンパンとはじめてその竹の音に神をのせて天までとどけることができるが、「真竹」を焚くとブスブスと繰り返しながら燃えるので、左義長に「破竹」材を使って神々を天まで送りとどけることは神に対する尊厳の念と考えられ、神罰を恐れて「真竹」は絶対に使わなかった。ところが近年はすっかり忘れられてしまったようだ。

梅 春に魁けて咲く花はふくよかな香をただよわせ、ひっそりと開くさまは清香可憐といえる。梅の種は繁殖力が強く、梅干しにするとしわがよって長寿の相を表する

松は陽、竹も陽、そして梅は陰である。松竹梅は陰陽の立場からも完全な世界を構成しているといわれている



植物学の上からも松竹梅が植物界を代表していることが知られている。

正月飾りとして使われる裏白を加えることによって植物界をおおうことができ、正月をより意義あるものにすることができると思える。本当にめでたいことですね。

このすばらしいことを古人は認識していたのでしょうか。

参考文献 永田久「年中行事を科学する」、湯浅浩史「植物と行事」、「本朝無題詩」
四手井綱秀「松と人生」、室井緯「竹の世界」、吉田金彦「語源辞典」、他

往く年・来る年

奈良市・樋口 善雄

早、師走も下旬に入ろうとしている。気分的には苛立つのだが、そのわりに手が動かない。外気が冷たい故だろうか。

ところで この一年振り返ったら、喜んでやった仕事や、参加した後で悔やんだ仕事、年内に済まさねばならぬこと等、いろんなことが一度に思い出されてくる。そんな こんなの思いの中で、私個人の活動を、まとめてみた。

又、来年は結果は別として、小さな夢をふくらませたい。

！！ 往く年 !!

1. 顔を残した。

「まさか？」と思われることが本当に起こった。今年の4月にNHKのテレビに、私の顔が出たのである。最初の印象は、何時も見ているオッサンの顔 → アノ顔は僕の顔 → 何としまらぬ顔 → と思っているうちに次ぎのシーンに移っていた。去年の秋にも紹介されたことがあった。その際には「局で編集するので、多分カットされる」と、キャスターの弁で安心し切っていたが「インタビューされている場面の顔が」くっきりと出たのである。飛鳥国立公園・里山クラブ活動の一端であった。画面では、「里山を守れ」と掲題がしてあった。思わぬ処から反応がでた。大阪自然環境保全協会、里山管理指導者養成講座の担当理事から、激励の文を頂戴するに及んだのである。又、大阪在住の友人達からは ヒヤカされた。名は残らなかったが、顔がNHKのフィルムに残った。

2. 足跡を残した。

世界文化遺産の奈良公園、春日山原生林巨樹調査が今春行われた。もちろん一般的には立入禁止区域であり、入山には その筋の許可を要する場所である。その機に故あって調査員としては活動できなかった。

時はながれて その調査結果は新聞でも報じられた。幹周3m以上の巨木を有する都市の内、この調査結果では、奈良市は全国一の巨木所有都市となったのである。

今秋9月から再調査が行われた。併せて樹種の違いはあるが古木の調査を兼ねた。この調査に要員として参加出来るように、甲斐野さんからの誘いに応じて調査に加わることが出来た。調査は安易ではなかったが、原生林の中を巨木・古木を探して歩くのは、探し当てたときの喜びを思うと楽しいものである。

私が所属した班では既に仁王杉(幹周10m)とネジ杉(幹周8m)が調べられており、前回調査の大樹(幹周14.2m)のスダジイや、(幹周13m)の大杉にも、香山堂跡に訪ねる機会に恵まれた。又、春日山中に自分の足跡が残せたことを、内心誇りに思っている。

● 中空高くそびえ立つ、これらの大樹の今後の健やかさを祈っている ●

3. 肩書が出来た。

肩書に厚みが出来た。従来は、シニア自然大学を終了した「自然観察アドバイザー」だけであった。今春受講したプロジェクト・ワイルド・エデュケーターが一つ増えた。

又、今秋取得したネイチャーゲーム指導員も書き加えられる。何れも自然に接し、その奥深さに染まろうとすることに変わりはないが、前者は理論的であり、大人向き。後者は実践的で子供向きと私は解釈している。もちろん両者とも子供・大人、ともに利用出来る方法はそろっている。

この肩書を如何に活かすか、その機会を伺っている。

！！ 来る年 !!

目標： ポチ ポチ やろうか！

今年のエトがヒツジ年。私は年男になった。昨年以上に健康に気を遣わねばならない。今年も引き続き継承する行事と新しくやりたい行事が頭の中では交錯している。

1. 継承行事 → 先ずは健康、身体各部のオーバーホールを少しずつ。

ボランティア、従来どおり充実したボランティア活動をする。

2. 新規行事 → 自然観察

(イ)春日山一周のコースに対する植生調査 (私個人の独自のものを作りたい)

(ロ)秋篠川での植生調査 (朝の散歩コースで生活圏なのだが、四季の相違及び沿岸の万葉歌碑を巡りたい)

※ 数年を要しないと不可能かも知れないが、小さな夢として育てたい。

以上

編集後記

あけましておめでとうございます。

今回は新年にふさわしい内容になっています。まず念頭にあって会としての目標と意思疎通を図っての組織強化。さらに行事案内と参加感想、情報・知識、そして自由課題となり、一定のパターンが定着してきました。今年も会員のみなさんからの投稿をお待ちいたしております。

各部の決定事項や連絡事項は1月20日までに下記までお送りください。

連絡先 有本 倍美：

奈良・人と自然の会事務所

会長 川井 秀夫